

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2192200018-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では四季折々の季節の行事を大切にしております。普段、屋内で過ごすことの多い入所者様は季節のうつろいを実感することができ、ご家族の方からは、家にいた頃よりいろいろな体験ができると好評をいただいています。またお誕生日会や外食に出かける、定期的に保育園や地域のボランティアの方が訪問し交流するなど、入所者様の気分転換、生活に楽しみを持つ機会を設けています。イベントの際は必ず写真を撮り、編集してフロアに貼りだし、入所者様を始めご家族や訪れる人々に楽しんでいただいています。さらに年度末に一冊の個人アルバムを作り、全員にプレゼントしています。また今年度は新しい試みとして、入所者様による講演会が開かれ、他の入所者様はもとより職員も熱心に耳を傾けていました。常に入所者様と職員が一緒に参加し楽しむことを基本としており、共同生活の場であると認識し、信頼関係の構築にも一役買っていると思われま。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がぬくもりを感じ、ゆとりある生活ができるよう、毎月、理念にそった月間目標を立てて支援に取り組んでいる。職員は個々に年間目標を立てて、利用者のペースと意向に合わせゆったりと暮らしてもらえよう、事業所が目指す見守る介護の実践に努めている。「利用者毎の申し送りノート」、「目標を共有するノート」、「介護計画の短期目標の実施状況を確認できる介護記録」を活用して、介護状況を確認し介護計画のモニタリングに役立っている。家族には利用者毎の1年間の暮らしの様子をまとめた写真集を作り喜ばれている。中に、職員の成人式の時、晴れ着を着て利用者の祝福を受けたり、赤ちゃんや自宅の犬を連れての訪問などの写真があり、家庭的な雰囲気や温かさが伝わってくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に掲示し、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットで理念に基づいてケアの月間目標を、職員は年間目標を掲げ、実践に努めている	玄関や事務所に貼り、会議で話し合い共有している。毎月の理念に添ったケア目標を申し送りノートにはさみ確認している。利用者のペースに合わせ毎日が過ごせるように、寄り添う介護をこころざし理念の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とは言えないが、利用者の必要とする物品を本人と一緒に近隣の店へ買い物に出かけている。また、定期的に発行する広報(おたより)を自治会の回覧で回したり、事業所のイベントに地域の方にも参加を呼びかけている	事業所の便りを自治会長のところを持参し、行事参加などをお願いしている。野菜のおすそ分けや、子供みこしの訪問、近隣の人のボランティア参加がある。買い物は近所の店を利用し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。昨年度は地域のスーパーで「介護相談会」を開催し地域の人々の相談に乗る機会を設けたが、今年度は実現に至らなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開かれ、年2回は系列の4事業所合同で行われる。意見交換にて普段知ることのない情報を得ることができ、自事業所に取り入れ、ケアの質・サービス向上に活かしている。また、自事業所での会議では、忌憚のない柔軟な意見交換、やり取りができ、地域色の濃い内容となっている	外部評価への意見や助言を頂いている。地域の人から認知症への質問について専門家としての意見を発信し、相互の意見交流が出来ている。地域からの情報提供があり、それをサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の認定調査で市の担当者が訪問した時に、事業所の状況を伝えている。また、事業所も、困難事例について相談しアドバイスをいただくなど、連携を密にし協力関係を築いている	地域密着型サービス利用についての法的な質問をして助言を受けることや、権利擁護事業についてなど、市と常に連絡を取り合っている。また事業所からは空き情報などを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサーなど使用する場合も適時見直しを検討し、「身体拘束をしない」を常に意識したケアに取り組んでいる。玄関は、日中施錠せず開放している	身体拘束について研修会を実施し、会議で常に見直し検討している。身体拘束のみならず、言葉による拘束にも気を付け、ケアの場面ごとに禁句一覧表を作り職員が自分で気づけるように工夫している。2ユニットを隔てるドアも鍵をかけておらず自由に行き来ができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画を立て、内部研修にて職員に周知徹底している。日々のケアに注意を払い、必要と感じた時は随時個別または全体で研修を行い、正しい知識の理解、虐待防止の徹底に努めている。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、必要に応じて、内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に事務所の者(看護師、ケアマネ)も必ず意見や要望を聞く機会を持っている。他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる。利用者は馴染みの職員や内容によっては事務所に直接意見や要望を述べる環境が整っている	アンケートの結果を家族に返し意見をもらっている。家族訪問が多い土・日曜日は、管理者かケアマネジャーが勤務し、意見をもらえるよう声をかけている。家族意見により行事一覧表を玄関に貼り家族も参加しやすいように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に必要に応じて随時面談を行い、声を聞く機会を持っている	自己評価表から職員意見を取り入れたり、事務所で随時話を聞いたりしている。職員の勤務交代など急な変更や、物品の購入、ケア内容への意見などを聞き随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全事業所合同の研修を開く時は、一緒に学ぶ事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。ケアマネは、2ヶ月に1回市の連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることをいついかなる時も忘れずに、本人の話に耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど、支え合い、助け合いながら共に生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝え、共有している。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支援する関係であることを認識し、関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設入所している友人との電話での交流、また家族の協力のもと昔から行きつけの喫茶店に毎週モーニングに出かける、在籍している句会に俳句を引き続き投稿するなど、馴染みの人や場所との関係の継続を支援している	利用者のなじみの相手とあらかじめ時間調整し、電話での話ができる様にしている。手紙や年賀状を出す支援はしているが、その人が過ごしてきた生活を知り、なじみの人との交流再開までの支援が少ない。	利用者が過ごしてきた生活や時代を知り、なじみの場所への訪問や人との再会などへの積極的な支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。利用者同士の交流の場としてレクの時間を設けており、利用者がお互いに支え合える関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、関わりを必要とする本人・家族には、いつでも相談に耳を傾けたり支援できる体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、本人の希望や意向を把握している。困難な場合は、本人にとって最適な支援ができるように家族と相談し、本人本位の視点にたち 検討している	利用者の思いを日常の交流で把握するだけではなく、毎日の介護記録(食事量や体重等)も見て考え変化を知り思いの把握に努めている。伝えにくい人には日常を細かく見ることにより、体の動きやまばたきで思いの把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人との会話、聞き取りなどの情報を元にアセスメントシートを作成し、これまでの暮らし、生活歴を職員全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動や身体状況の移り変わりを毎日個別記録に記入し、更に申し送り(ノート、毎日のメモに記載)を徹底することで、職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、または必要時モニタリングを行い、課題の抽出、ケアについての検討・見直しなど行う。本人、家族、医療機関など必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している	月に1回会議で話し合い、課題の検討をしている。家族とは訪問時や計画変更時に意見を聞き話し合っている。職員意見で食事内容の変更や、ベッド柵から介助バーへの変更等、随時見直して計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子や状況、ケアの内容など個別記録に記入し、口頭や書面での申し送りで職員間の情報の共有、把握に努めている。介護計画においては、毎月のモニタリングに情報を反映し、現状に即して見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、外出支援や受診・入退院時の送迎、入院中の洗濯やおむつ補充、美容室の送迎など支援を行っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は、個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている	利用者は家族の付き添いでかかりつけ医を受診している。家族の都合の悪い時や急変等には、職員が同行している。看護師が家族から受診結果を聞いて個別介護記録に記載し、職員全員で周知出来る様にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき、異常の早期発見に努めている。変化に気づいた時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連携を取り、適切な医療対応に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師や職員は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる。事業所のできることを、方針を明確に伝え、希望があれば施設で最期を迎えることもできる	入居時に、事業所のできることを説明し希望があれば、終末期まで対応する事を家族に伝えている。利用者の状態の変化に応じ、関係者全員で相談しながら支援している。マニュアルを用意し、看取りへの職員教育を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また迅速に対応できるよう目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に煙を発生させる、夜間を想定するなどの避難訓練を行ない、地域の役員も訓練に参加している。近隣の住民参加は実現できていない。水害など自然災害時の避難場所は、随時、運営推進会議で話し合って確認している	消防署の協力で、夜間想定避難訓練等を定期的実施している。しかし地域住民の参加や協力が十分ではない。また、水害や地域性を考慮し山崩れ等に対する避難場所や方法など、長期的視点での災害に対する対応はまだ行われていない。	利用者が安全に避難出来る様に、地域住民へ訓練の参加や協力を依頼してほしい。大きな災害や長期災害に備えての対応が出来る様に事業所のみならず、法人全体としても取り組んでほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄など介助の場面で、自尊心に配慮した声かけや対応を行っている。内部研修を行う、介護計画書に挙げるなど職員が常に意識を持つように努めている	年長者を敬う気持ちを大切に、入浴や排泄時の禁句一覧表を作り職員に伝えている。共用空間を移動する時は着替えやパットを見えないようにバッグに入れて運び、利用者が居室ドアを閉め忘れていれば、そっとドアを閉める配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が思いや意向を気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じて、その都度本人と話し合い、希望にそえるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問し、本人と相談しながら希望に沿った髪型にカットしたり次月に見合わせたりしている。服装においては、起床時や外出時など、本人と職員が相談して一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成し、一人ひとりの好みを把握している。利用者と一緒に献立を決めたり準備・片付けを行い、同じテーブルで会話を交えて楽しく食事をしている。献立は、利用者のリクエストに応じる時もある。自分の力で食事ができるように箸、スプーン、器など本人に合った物を適切に用意している	ユニット毎に利用者の好みやリクエストに沿えるよう献立を作り、一緒に食事をしている。箸で食物がつかみにくい人には介助しながら、時間をかけて自分で食事をする楽しみを支援している。外食や行事食、お茶会等、楽しめる支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて調整し、水分は食事以外でも飲む機会を持つように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている。また必要に応じて定期的に歯科往診を受け、義歯の調整や口腔ケア指導を仰いでいる		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録に排泄状況を記入、本人に合わせた排泄パターンを把握している。状況に応じて声かけ、誘導、介助など援助している。日中は全員トイレを使用し、状況に応じて二人で介助するなど、本人の排泄習慣が守られるように支援している	昼間は車いす移動の人も含めて、全員にトイレ排泄を支援している。立ち上がり状態や、排泄感覚を時間をかけて見守り把握する事により、おむつからリハビリパンツ使用に変わった人がある。夜間のトイレ利用者には付き添い、自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録の排泄チェック表と申し送りにて排便状況を把握し、早期に便秘が解消できるように支援している。便秘対策として、水分、食物、適度な運動など配慮、実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、できるだけ本人の希望に沿って入浴できるように支援している。予定のない日でも状況に応じて実施している。個浴(一般浴)が難しい利用者は、機械浴(特浴)を利用し、清潔保持に努めている	好みの温度や時間でゆったりと入浴出来る様に工夫している。職員は見守りながら一緒に歌を歌ったり、過去の思い出話を聞いたりして入浴が楽しみとなるよう支援している。また、介護が重度になっても機械浴で入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調を考慮し、本人のペースで安心して休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、本人のカルテ及びユニットの個別ファイルに作成し把握している。服薬は、一人ひとりの状況に応じて介助している。症状の変化については、随時看護師に報告し、医療と連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートにて一人ひとりの生活歴や好み、趣味を把握し、歌やゲーム、学習、体操など個々に合ったレクを楽しんだり、家事など役割となるものを持ち、気分転換や生活の活性化など支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時や天気の良い日は屋外に出て、散歩したり、ジュースを買いに近隣の自販機まで歩いたり、玄関の花を觀賞する機会を持っている。また、年間行事計画を作り、ボランティアの協力の下、季節の行事や誕生会に合わせて外出支援(外食)を行っている	天気の良い日には事業所の周辺を散歩したり、ジュース等の買い物に出かけたりしている。家族やボランティアの協力を得て、墓参り、お花見、紅葉見物、外食等、外出機会を多く作り、車椅子の人も一緒に出掛けている。	

グループホーム南農「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、お金は事務所で預かっている。必要な物品は、職員が本人の希望を聞き購入、または一緒に買いに出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は本人に代わり投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースは、季節に応じて手作り中心の飾り付けが施されている。また、行事の写真を車いすの人でも見れるように低い位置に貼り出し、誰でも楽しみながら振り返ることができる。光、温度など空調管理は、一人ひとりが快適に過ごせるように配慮し、席の位置、ロールカーテン(日中、日射しに合わせてこまめに開閉)など工夫している	正面入り口へのアプローチには季節の鉢植えを置き、玄関にはひな飾りや手作りの干支のマスコット、月毎の行事の予定表が貼ってある。共用空間に加湿器を置き乾燥を防ぎ、夏になれば、窓の外によしずをかけ温度調節をすると共に季節感を取り入れる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に座ってテレビを観たり、他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。また、和室においても、職員と会話を交えながら洗濯物を畳む姿や利用者同士が歓談する場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮し、本人や家族と相談して馴染みの物、好きな物を置いている。壁にはお誕生日や行事の写真、習字の作品などが貼り出している	利用者の希望や身体状況に応じ畳やカーペットを敷いている。利用者と相談しながらテレビや筆筒などを、居心地よく過ごせるよう配置している。仏壇や位牌を置き、家族写真や習字の作品などを飾り、その人らしい居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせ、転倒事故などにつながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200018-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に掲示し、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、年度初めにユニットと職員は理念に基づいてケアの年間目標を掲げ、実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とは言えないが、利用者の必要とする物品を本人と一緒に近隣の店へ買い物に出かけている。また、定期的に発行する広報(おたより)を自治会の回覧で回したり、事業所のイベントに地域の方にも参加を呼びかけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている。昨年度は地域のスーパーで「介護相談会」を開催し地域の人々の相談に乗る機会を設けたが、今年度は実現に至らなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開かれ、年2回は系列の4事業所合同で行われる。意見交換にて普段知ることのない情報を得ることができ、自事業所に取り入れ、ケアの質・サービス向上に活かしている。また、自事業所での会議では、忌憚のない柔軟な意見交換、やり取りができ、地域色の濃い内容となっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者の認定調査で市の担当者が訪問した時に、事業所の状況を伝えている。また、事業所も、困難事例について相談しアドバイスをいただくなど、連携を密にし協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い、職員に周知徹底している。離床センサーなどを使用する場合も適時見直しを検討し、「身体拘束をしない」を常に意識したケアに取り組んでいる。玄関は、日中施錠せず開放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画を立て、内部研修にて職員に周知徹底している。日々のケアに注意を払い、必要と感じた時は随時個別または全体で研修を行い、正しい知識の理解、虐待防止の徹底に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護支援専門員連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、必要に応じて、内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニットの職員とは別に事務所の者(看護師、ケアマネ)も必ず意見や要望を聞く機会を持っている。他にアンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる。利用者は馴染みの職員や内容によっては事務所に直接意見や要望を述べる環境が整っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気軽に意見や相談、要望を言える関係作りに努めている。また、職員による自己評価表の作成、個別面談の他に必要に応じて随時面談を行い、声を聞く機会を持っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全事業所合同の研修を開く時は、一緒に学ぶ事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。ケアマネは、2ヶ月に1回市の連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談するが、安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とじっくり話し合う時間を設け、今までの経緯や、家族の不安、要望など共感の姿勢で傾聴する。入所後も本人と共に支えるパートナーとして信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、要望をお聞きし、また状況から必要とされる支援を見出し、相談、検討している。(訪問マッサージ、歯科往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむなど一緒に家事をしたり、同じテーブルを囲んで食事を食べるなど生活を共にしている。また日常生活の介助だけでなく、時にはこちら(職員)から相談に乗ってもらったり知恵を拝借するなど、支え合う関係を維持している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を面会時や電話、お便りにて随時伝えるなど、入所しても本人と家族との関係が継続できるように努めている。家族にしか出来ない役割・サポートもあり職員と一緒に本人を支えていく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解、協力のもと、旧知の友人や近所の方が気軽に会いに来れるよう支援している。入所時に説明し、家族、本人の意思を確認している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。利用者同士の交流の場としてレクの時間を設けており、利用者がお互いに支え合える関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、関わりを必要とする本人・家族には、いつでも相談に耳を傾けたり支援できる体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中から把握し、できるだけ希望に沿うよう努めている。困難な場合は、本人にとって最善な支援ができるように、本人の視点に立ち、家族と相談し、職員間で検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族および関係者(友人など)の協力のもと、アセスメントシートを作成し、知り得た情報を職員全員が把握し、ケアに活かせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を個別記録に記入している。変化があった時は、申し送り(口頭、メモ、ノート)を徹底し、職員間で共有、把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回および必要に応じてモニタリングを行い、課題の抽出、ケアの検討など本人、家族、職員や多職種間で行い、連携しながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアのあり方、気付いたことなど個別記録に記入し、申し送りなどで職員間の情報の把握、共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じて、外出支援や受診、入退院時の送迎、入院中の洗濯物のやりとりやおむつを届けるなど、柔軟な支援を行っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は、個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で一人ひとりの状態把握に努め、少しでも何らかの変化があれば、看護師に報告している。看護師は24時間オンコールで不在時も連携を取ることができ、適切な医療に繋げている。さらに場合によっては、系列の事業所の看護師と連携できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師や職員は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。適時、意思を確認し、できるだけ本人(または家族)の希望に沿った最期を迎えることができるように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を、消防署の協力のもと定期的に行っている。また迅速に対応できるよう目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に煙を発生させる、夜間を想定するなどの避難訓練を行ない、地域の役員も訓練に参加している。近隣の住民の参加には至っていない。自然災害時(水害:浸水など)の避難場所は、運営推進会議で話し合っ確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護計画書のサービス内容にも掲げ、利用者の自尊心に配慮した対応(関わり方、ケア)を心がけている。プライバシーは居室入り口に「のれん」を設置するなど個別に対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を伝えやすい環境(雰囲気)作りに努めている。自己決定の難しい利用者に対しては、思いを引き出せるような関わりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じて、その都度本人と話し合い、希望にそえるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好みの衣類を選ぶ、お化粧品や肌の手入れなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、家族の協力も得ながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人ひとりの好みや有する力は、アセスメントシートで把握している。利用者と職員と一緒に準備、あと片付けを行う他、同じテーブルを囲み、会話を交えながら楽しい食事時間を過ごしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し、体調の把握に努めている。10時、3時、入浴後にも水分を用意し、好みに応じた物を出すことにより水分確保を図っている。栄養バランスは定期的に栄養士の指導を仰いでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力を把握し、それに応じて食後の口腔ケアにあたっている。状況に応じて歯科医往診による義歯の調整も行っている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、ADLに応じて必要な援助を行なう。日中は、全員トイレを使用し、排泄習慣の維持に努めている。尿意、便意のない利用者は、排泄パターンから適時トイレに誘導したり、言動からサインに気付くように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、水分や食品などの工夫や運動で自然排便に至るよう取り組んでいる。状況に応じ、服薬調整もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、できるだけ本人の希望に沿って入浴できるように支援している。予定のない日でも状況に応じて実施している。個浴(一般浴)が難しい利用者は、機械浴(特浴)を利用し、清潔保持に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣を考慮し、本人のペースで安楽に休めるよう空調管理、照明など支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、個別記録と一緒にファイルしてある。毎日の服薬に関しては、介助した職員が記録にサインする、誤薬防止の為にチェックする場面を複数にするなどの体制をとっている。症状の変化については、早期に気付くことができるよう日々確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートにて一人ひとりの生活歴や好み、得意なこと、趣味を把握している。一人ひとりの力を引き出せるように、個々に合ったレクを用意したり適度な家事に取り組むなど、役割や楽しみのある暮らしを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時や天気の良い日は屋外に出て散歩したり、喫茶店に行くなど気分転換の機会をもっている。また、年間行事計画を作り、家族やボランティアの協力のもと、季節の行事や誕生会に合わせ、外出支援を行っている(今年は東員町のイオンやイチゴ狩りに出かけた)		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、お金は事務所で預かっている。必要な物品は、職員が本人の希望を聞き購入、または一緒に買いに出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間に取りつぐ事が出来る。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は代わりに投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースは、季節に応じて手作り中心の飾り付けが施されている。また、行事の写真を車いすの人でも見れるように低い位置に貼り出し、誰でも楽しみながら振り返ることができる。光、温度など空調管理は、一人ひとりが快適に過ごせるように配慮し、席の位置、ロールカーテン(日中、日射しに合わせてこまめに開閉)など工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにリビングにソファを用意している。和室においても、職員と会話を交えながら洗濯物を畳む姿や利用者同士が歓談する場面が見られる。また一人で過ごしたい時や外の景色を眺められるように廊下に椅子が置いてある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が居心地よく過ごせるようにベッドや家具の配置など配慮し、本人や家族と相談して馴染みの物、好きな物を置いている。壁にはお誕生日や行事の写真、習字の作品などが貼り出している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせ、転倒事故などにつながる障害物の撤去、夜間はカウンター周辺の物をすべて片付けるなど安全な環境を整え、本人の残存能力を活かし自立した生活が送れるように支援している		